



(<http://www.indepthnews.net/>)



(</index.php/archive-search/central-asia>)

Acronym of the Year



(</index.php/global-governance/ctbto>)



Published by the International Press Syndicate and the Global Cooperation Council

(</index.php/global-governance/un-insider>)



核兵器



写真：セッション中のIPNDVの会議。クレジット：IPNDV

原子力兵器廃絶の鍵を握る監視

0

Jamshed Baruah

ニューヨーク (IDN) - 国連総会が2017年7月7日に核兵器禁止条約を

(<https://www.un.org/disarmament/ptnw/>)採択し、原子力兵器

(<https://www.un.org/disarmament/ptnw/>)の禁止と完全廃絶を訴えたことから、核兵器の検証と核

廃絶の問題が得られた特に重要です。適切な技術の開発や再設計が必要な分野がいくつか存在するためです。

過去40年にわたって、米国とソ連、そしてロシア連邦の後継者であるロシア連邦は、実質的な核弾頭と戦略的ミサイルと爆撃機の兵器を制限し、削減する一連の二国間協定などの措置をとった。

彼らが直面している疑問の中には、核兵器の有無にかかわらず、どの国が核兵器が解体されたのか、どのように自信を持っているのだろうか。どのようにしてこれらの武器を持つ国は、信頼性を提供するプロセスについて十分な情報を共有することができますか？これを利用できるツールもありますか？

米国国務省 (<https://www.state.gov/>)と核脅威イニシアチブ (NTI (<http://www.nti.org/>)) との間のユニークな官民パートナーシップであり、世界各国から25カ国以上に及ぶ核軍縮検証のための国際パートナーシップ (IPNDV (<https://www.ipndv.org/>)) は、米国の懸念に取り組んでいる特に2014年以降のロシア。 (<https://www.state.gov/>) (<http://www.nti.org/>)

米国国務省の武器制御、検証及び遵守 (AVC) 局は、将来及び既存の核兵器の管理及び軍縮協定及び約束における監視及び検証資源の妥当性を評価する努力をリードし、検証技術の実装

NTIは、核・生物・放射線・化学・サイバーなどの大量破壊兵器 (WMDD) による致命的な攻撃を防止するために活動する非営利団体で非営利組織です。

2015年3月に開催された第1回会合以来、IPNDVは多様な国際プログラムを構築する上で新たな地位を築いた。共同で協力して、パートナーは、核軍縮検証に関連する課題を特定し、それらの課題に対処するための潜在的な手順と技術を特定する上で重要な進歩を遂げました

パートナーシップの活動はまた、米国ロシアの監視と検証の経験、核拡散防止と軍備管理技術に関する米英国のプログラム、核弾頭解体検証に関する英国ノルウェーのイニシアチブに基づいている。

IPNDVは、ブエノスアイレスにおけるアルゼンチン外務省および礼拝の第5回総会で2017年11月29日から12月1日にかけて、活動の範囲を広げるためのフェーズIIプログラムを定義した。フェーズIIの作業は、2020年の核拡散防止条約 (NPT (<https://www.un.org/disarmament/wmd/nuclear/npt/>)) 再検討会議への立ち上げの検証の重要性を増幅させると、パートナーシップ筋は述べた。

具体的には、ワーキンググループは、宣言および棚卸に関する検証を扱う。核兵器削減。検証のための技術。フェーズIIの第1回会合は、2018年3月にスウェーデンで開催される予定です。

アルゼンチンのダニエル・ライモンディ外務次官は、ブエノスアイレスの発足記念で、「核軍縮検証に関わる技術的側面に取り組むことで、核軍縮の第6条に基づく核兵器国の主要義務の履行に重要な一歩を踏み出したNPT ...」

ライモンディ氏は、「我々は、核兵器国と非核兵器国との間の対話と信頼醸成措置を醸成する必要があるとも考えており、この点で共通の理解に達するためにどう協力するか」

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、チリ、中国 (オブザーバー)、EU、フィンランド、フランス、ドイツ、ホーリーシー、インドネシア、イタリア、日本、ヨルダン、カザフスタン、メキシコ、ノルウェー、フィリピン、ポーランド、ロシア連邦

(オブザーバー)、韓国、スウェーデン、スイス、トルコ、アラブ首長国連邦、英国、米国が含まれます。

フェーズ I における核兵器解体の決定は、解体が核軍縮検証の最も重要で複雑で技術的に困難な課題の1つであるという認識に基づいているが、フェーズ I の成果は本質的に技術と手順を概説するツールキットであるIPNDVの筋によると、今後の監視される解体プロセスに自信を持たせることができます。

IPNDVウェブサイトは、3つのフェーズIワーキンググループから詳細な論文または「成果物 (<https://www.ipndv.org/news/working-group-deliverables-provide-analytic-basis-nuclear-weapon-dismantlement-tool-kit/>)」を提示しています。ワーキンググループは、モニタリングと検証の目的（オランダと英国が共同議長を務めた）に取り組んだ。オンサイト検査（オーストラリアとポーランドが共同議長を務める）。技術的課題と解決策（スウェーデンと米国が共同議長を務める）

報告された論文には、潜在的なモニタリングと検証の要件の詳細な評価と、この分野における国の既存能力の評価が含まれる。

兵器認証のためのIPNDVのワーキンググループ3で特定された技術要件に基づいて、この種の活動に特化して使用するために技術を開発または再設計する必要のある領域がいくつかあります。 [IDN-InDepthNews - 2017年12月12日]

写真：セッション中のIPNDVの会議。クレジット：IPNDV

IDNは、International Press Syndicateの (<http://www.international-press-syndicate.org/>) 旗艦機関です。

facebook.com/IDN.GoingDeeper - twitter.com/InDepthNews

◀ 前の (</index.php/armaments/nuclear-weapons/1533-listen-to-our-testimony-heed-our-warning>)

次 ▶ (</index.php/armaments/nuclear-weapons/1528-iran-deal-key-strategic-priority-for-global-security-mogherini-tells-tillerson>)

関連ウェブサイト



(<http://www.international-press-syndicate.org>)